貫井の風

令和２年度　６月号
ＮＯ．２
練馬区立貫井中学校　学校だより

一冊の本、そして一本のペン、それで世界を変えられます
（マララ・ユスフザイ）

校長　桐野　和之

皆さんは、「自分の言葉の力」について考えたことがありますか。一人の人間の勇気ある言葉で世界を変えることができる、そんな未来に希望をもって生きている人の言葉を紹介します。

二〇一四年、史上最年少の一七歳でノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの言葉です。それは、「一冊の本、そして一本のペン、それで世界を変えられます」という言葉です。

マララ・ユスフザイさんは、二〇一二年一〇月九日、パキスタン北西部のスワートで、中学校から帰る途中、武装グループの男に銃で頭を撃たれ、意識不明の重体になりました。しかし、マララさんは奇跡的に回復します。そして、二〇一三年七月一二日、ニューヨークの国連総会の演説で、「（武装グループに銃撃を受けたことで）私の人生で変わったものは何一つありません。ただ、次のものを除いて、です。それは、私の中の弱さ、恐怖、絶望が死にました。かわって、強さ、力、そして勇気が生まれました。」と、そして、「教育こそがただ一つの解決策です」と話し、銃撃されてからも、勇気を持って世界の人に、すべての子どもに教育を確実に与えることを訴えています。

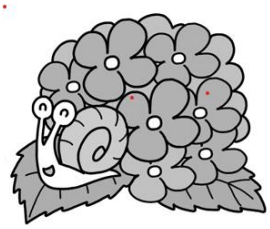
ではどうして、一五歳のマララさんは銃撃されたのでしょうか。マララさんの住むパキスタンのスワートでは、女の子が学校へ行くことを禁止しています。しかし、マララさんは学校へ行くことを禁止した武装グループを批判し、教育を受ける権利を主張し続けたために銃撃されたのです。

世界には他の国でも、たとえばインドではおおぜいの貧しい子どもが、学校へ行かせてもらえず、小さな時から働かされています。ナイジェリアでは、教育は子どもに必要ないといって多くの学校を壊し、先生や生徒を殺害しています。アフガニスタンでは女の子は幼い年齢で結婚させられ、学校に行くかわりに、家事をさせられています。

このように、世界には学校に行き学びたくても学べない子どもたちが多くいます。マララさんのこのメッセージは世界中の多くの人たちが共感し、二〇一三年一〇月一〇日に欧州会議から、人権や表現の自由を守るかつ童話をたたえるサハロフ賞を受賞しました。翌年の二〇一四年一〇月、マララさんは一七歳でノーベル平和賞を受賞します。そのとき、「この賞は終わりではなく、始まりに過ぎない」と語っています。マララさんの「世界のすべての子どもに教育を」と訴えるメッセージ「一冊の本、そして一本のペン、それで世界を変えられます」は、学校に行けない世界中の子どもたちに勇気を与えています。

「一冊の本、一本のペン」をもつこと、それは、「自分の言葉で考え、自分の言葉で気持ちを伝えることができる力を持つこと」です。学ぶことは、自分の「可能性」であり「希望」です。マララさんの言葉から、未来の自分への挑戦をスタートしてほしいと思います。

学校の再開にあたり



東京都の緊急事態宣言が解除され、６月１日(月)より学校の教育活動が再開しました。さすがに生徒たちが学校に登校して来ると学校は息を吹き返していく印象を持ち、大変嬉しく思います。しかし、平常の登校とは違い、分散、段階的な登校です。宣言の解除は、以前の生活状況を取り戻したわけではありません。まだまだ十分な注意を要する生活をしなければなりません。「不要不急の外出をしない」ということも忘れてはいけないと同時に、新しい生活様式を嫌でも受け入れなければならないと思います。

先ずは３つの密を避ける。学校はそうでなくても人が行き交い集まる場所です。密集、密接、密閉の状況は教職員とともに、生徒一人ひとりが互いに配慮し、守っていかなくてはなりません。今までの生活習慣になかったことを当たり前のように、そして新しい生活様式として実行していく必要があります。

手洗い、うがい、咳エチケット、マスクの着用は自然に実行しなければなりません。咳エチケットで出たゴミも学校の専用のゴミ箱を使用して捨てる必要があります。トイレも密集、密接、密閉にならないよう、互いに気を遣いながら手際よく利用しなくてはなりません。

また、日常の会話も残念ながら減らしていく必要があります。「おしゃべりは楽しい」ですが、それも今は少し我慢の時です。朝の検温も必ずしなければならない日常の習慣です。各自の自覚を大切にしてください。さらに、熱が少しあれば、以前なら「このぐらいの熱」と考え、学校へ登校することも考えられましたが、現時点では、無理して登校せず、学校を欠席(出席停止)という手段をとらなければなりません。

以上のように考えると、本当に息苦しい、つまらない学校生活のように思えてきます。

しかし、そこで踏み止まってよく考えてください。何のためにこのような理不尽な生活をしなければならないのか。目的は「生命の尊重」なのです。同時に、「やるべきこと」をしっかりやらないことにより、どうなってしまうのか。感染が拡がれば、学校を閉じなければならない状況となります。学校を閉じれば、授業や学校行事等、皆さんが渇望していることがまた遠ざかってしまう状況となります。日常生活でしばらくは、感染を避けるための「不要不急の外出をしない」ということは続けなければなりません。大勢の人が同じことをしっかりやることでウィルスとの共存が図られていくことにつながると思います。まだまだ予断を許す状況ではありません。そのことをお互いが自覚し、皆さん、頑張っていきましょう。

貫井中学校に着任して

心のふれあい相談員　福間　千鶴子

南が丘中学校から参りました心のふれあい相談員の福間千鶴子です。練馬区で生まれ育ちました。練馬区を離れたのは半世紀以上(ここはあえてファジーで)の人生での中で５年だけです。生まれ育った大好きな練馬区に勤務できて本当に幸せに思っています。

正門を入ると正面に大きな桜の木、右側にはちょっとおしゃれな空間の中庭。なぜか心が和み「今日も一日がんばるぞ！！」という気持ちになります。

コロナの影響大なる現在、早く事態が収束し１日も早く通常の生活に戻り貫井中生に会いたいと思っています。そして微力ですが少しでもお役に立ちたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

学校生活支援員　藤野　素子

今年度より貫井中学校で勤務させていただく事になりました、学校生活支援員の藤野素子です。昨年度は中村小学校で臨時支援員として働いていました。始業式、教科書配布日、課題配布日に下駄箱に立っていると生徒の皆さんがとても元気に挨拶をしてくれました。不安な中、前を向こうとする気持ちが伝わってきました。私も皆さんと共に頑張っていこうと前を向けました。生徒の皆さんが、毎日充実した学校生活を送るサポートができるように努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

数学科時間講師　山口　徹

このたび、１年生の数学の授業をお手伝いさせていただくことになりました。

長い休業期間がようやく終わり、皆さんはホッとする気持ちと憂鬱な気持ちの両方を感じているのではないでしょうか。特に１年生の皆さんは不安な気持ちが大きいでしょうが、それはあまり気にせずに、ゆっくりペースをつくっていきましょう。

算数と数学はどう違うの？これもきっと心配の種でしょうが、そのうちわかりますよ。授業で皆さんと一緒に勉強しながら、少しずつ理解してもらえるようにします。また、質問しやすい雰囲気を作っていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

保健体育科時間講師　野田　周吾

昨年度までいらっしゃった小池先生の代わりに来ました。本年度から保健体育科の時間講師を行います「野田　周吾（のだ　しゅうご）」です。

学校にいる曜日は、基本的に月曜日、火曜日の午後、そして金曜日です。４年前まで貫井中学校にいたので、３歳、４歳年上のお兄さんお姉さんがいる生徒は見たことがあるかもしれません。専門の競技はバスケットボールですが、球技全般が好きです。もちろん柔道も。

今年度はもう２ヶ月も過ぎてしまいましたが、学校生活も授業も楽しく充実させましょう。１年間よろしくお願いします。

数学科学力向上支援講師　滝澤　純子

初めまして。学校では数学のお助け先生、家では二児の母で、趣味はフルートです。初めて正門を通ったとき、大きな桜の木が目に飛び込んできて、大変感動しました。また、始業式の日には、面識のない私に生徒の皆さんが元気な挨拶をしてくださり、大変嬉しく思いました。

学力向上支援講師の経験は１０年以上になります。前職はＩＴ企業のシステムエンジニアで、主にデータベースエンジニアとして働いてきました。

今や計算はコンピューターがしてくれます。これからは考えていく過程が大事だと思います。数学で言えば、中間式です。生徒一人一人に合った説明を常日頃考えています。数学の問題で分からないところがあれば遠慮なく質問してください。一緒に考えましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

英語科時間講師　石井　枝里花

Hello! 言語大好き！エリカ先生です。面白くて実用的な授業を目指します。英語が苦手な人が多いですが、みなさんが少しでも英語を好きになれるようがんばります！よろしくおねがいします。

外出自粛の間、私は家で料理をしたり、お菓子を焼いたり、絵を描いたりしました。もちろん仕事と掃除・洗濯もしました！LINE やインスタグラムで海外に住む母や友人に英語でコミュニケーションを取ることもありました。趣味と英語力のお

かげで世界中の人と楽しく交流することができました。みなさんもぜひ趣味と英語を通じて様々な人と仲良くなりましょう！

新聞を読んで(朝日編集手帳)

東京都東村山市にある「銀河鉄道」はいっぷう変わったバス会社だ。採算を度外視して「地域の足」役を買って出る。運転免許を返納した高齢者は１年間無料。東北の被災地へ幾度もボランティアを運んだ。

コロナ対策で新たに始めたのは、地元から都心へ通勤客を乗せる無料バスである。「我が社の経営も首の皮一枚。ですが皆苦しい今こそ何か恩返ししたいんです。」と山本宏昭社長(56)は話す。電車通勤が不安な住民のため、開店休業の続く観光バスを活用した。社内はこまめに消毒し、座席は半数しか使わない。平日の朝６時、東村山駅を発車する。乗客の多くはリピーターだ。意気に感じた人々からお米や野菜、現金が届く。

聞けば、山本社長の生家は酒屋で、タレント志村けんさんの実家も得意先という。人気の出た後も町内会の盆踊りに気軽に参加してくれた。替え歌の「東村山音頭」で地元を有名にしてくれた恩は何にも勝るそうだ。

我が胸に手を当ててこの３ヶ月を振り返ると、コロナの真の恐ろしさに目が覚めたのは志村さんの訃報に接したときだった。元気な顔しか浮かばないあの志村さんが快癒できなかった。しかも遺族が最後に手をさすることも許されなかったことに身震いした。

取材を終え、銀河鉄道の玄関でお地蔵さんに手を合わせた。志村さんの決め言葉にちなみ、「大丈夫だァー地蔵尊」と命名された。感染の不安はなおぬぐえないが、楽観に走らず、悲観に傾きすぎないように自分を戒めた。

（*「簡単にできることではないと思いました。大変素晴らしく感じました。また、志村さんのことに触れながらコロナの恐ろしさと、『楽観に走らず、悲観に傾きすぎないよう』という部分に大変共感を得ました！*）

分散登校による授業を参観して（６／１０）

分散、段階的な登校による学校生活、授業が開始されて２週間目に入りました。各学年、クラスとも、在籍する生徒数をそれぞれ半分にした男女混合での授業が行われていました。授業を参観した日は、気温が３０度を超え、各教室は空調を作動させながら、窓や扉を開ける、熱中症対策とコロナウィルス感染症対策の両方の対策をとっていました。今までの学校生活では考えられないことですが、やむを得ず実施している新たな生活様式のスタイルです。

授業では、本当ならグループや隣近所の席同士の生徒で互いの意見や考えを積極的に交換したい場面もありましたが、指導する先生方もそこはグッと我慢して、距離を置いた先生と生徒の対話を中心に授業を進めていました。参観した授業の一部を紙面にて紹介します。授業は３年生の授業です。

国語。授業では詩を読み、作者の表現の工夫を捉えて読もうというねらいの下に行われていました。「次のようなひとは、どんなひととのべられているだろう」とワークシートの問いかけがあり、湖、沼、川・・・などはどんなひとと述べられているのか、生徒たちが読み取りながらまとめていました。

理科。気象について学んでいました。気象予報士になったつもりで、天気や気温を予想しようという先生の問いかけに、楽しく学習していました。ただし、単純な天気予報、気温予想ではなく、どうしてそうなるのか先生に根拠を求められ、前線の動きを読み取って、ていねいに説明しようとする生徒の姿勢、意欲に感心しました。